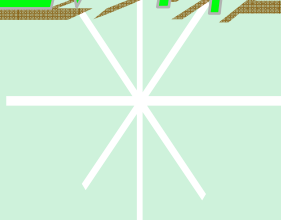


豊川自然再生事業



豊川左岸ヨシ原
(3.2k付近)



豊川河口干潟
(0.6k付近)

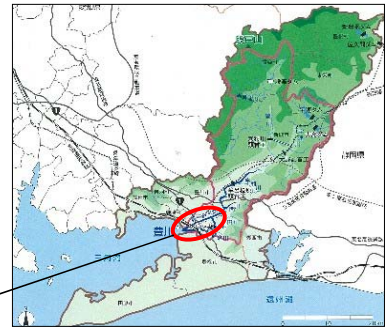
豊川の自然再生

豊川下流環境の変遷

豊川下流域は、河川整備等による治水安全度の向上に伴い、宅地化の進行や道路整備の進捗など、土地利用の高度化が進み、かつて豊川下流域の堤内地にあった氾濫原や湿田等の湿地環境が減少しています。

河川域においても、護岸整備や砂利採取等により、水際の湿地環境であるヨシ原・砂州が減少し、河口付近に広大に広がっていた干潟は一部を残すのみとなっており、豊川が本来有していた多様な生物の生息環境が減少しています。

このような背景のもと、ヨシ原・砂州、干潟環境の復元を実施しています。



広大な湿地環境

昭和23年

ヨシ原

宅地

干潟



治水安全度向上

土地利用多様化

平成12年

ヨシ原

宅地

干潟



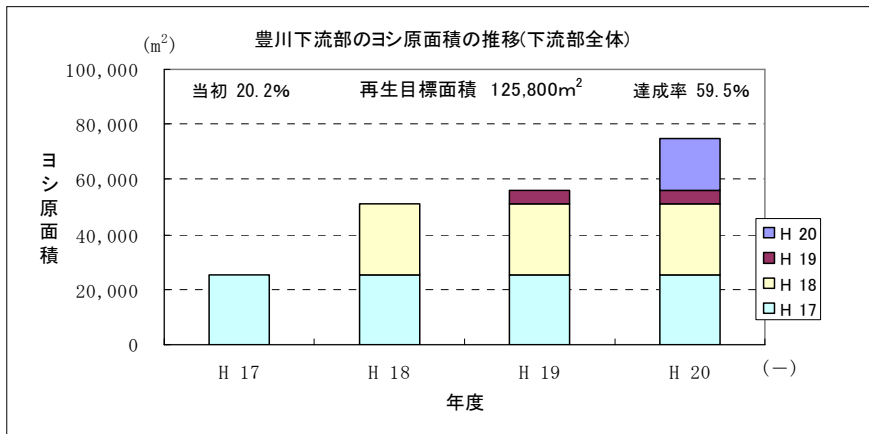
湿地環境の減少

自然再生事業

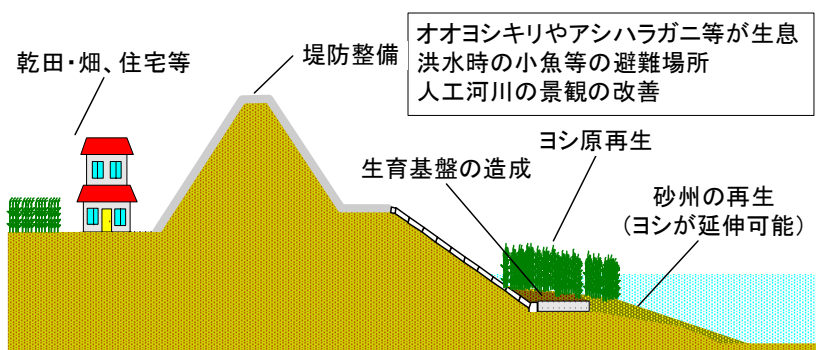
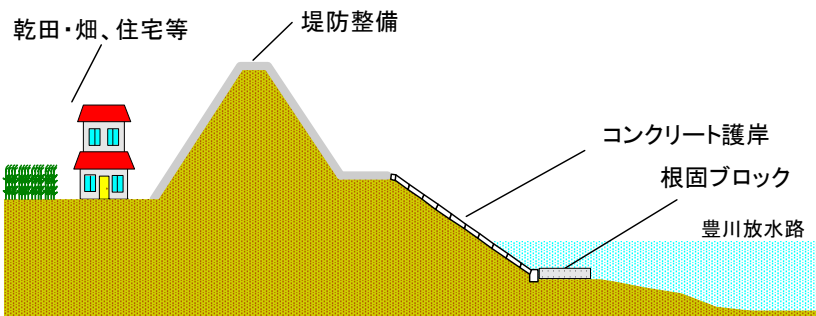
下流部対策(ヨシ原・砂州)

ヨシ原・砂州の再生状況

ヨシ原・砂州の再生は、平成17年に豊川放水路で試験施工を実施し、平成18年度より本格実施しています。
概ね全ての実施箇所で、ヨシ原が定着しており、平成20年度までに全体目標面積の6割程度まで、広がっています。



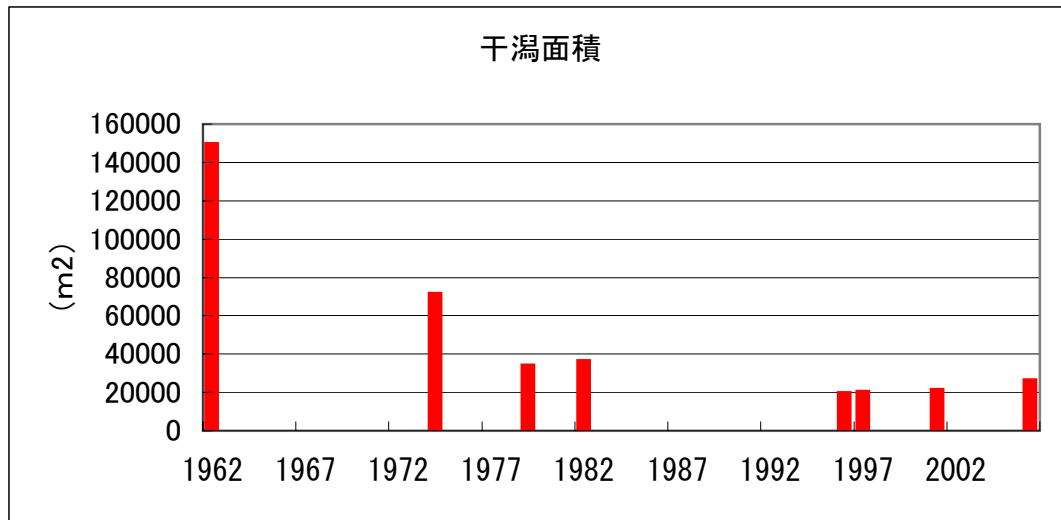
再生イメージ



河口部対策(干潟)

豊川河口干潟の現状

昭和40年代には、河口部に広がっていた干潟が、現在では減少しており、アサリなどの二枚貝の生息環境、シギ・チドリ等の渡り鳥の中継地の減少、水質浄化機能への影響が想定されます。また、アサリやハマグリ等の潮干狩りや海水浴など利用者も減少しています。



目標とする干潟

かつてのような全国有数のアサリ稚貝が発生するとともに、渡りの中継地や多様な生物が生息できる干潟環境の再生を目指します。



問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 調査課
〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
TEL(0532)48-8107
FAX(0532)48-8100
<http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>